



2007年12月19日

各位

会社名 株式会社ジーエヌアイ
代表者名 代表取締役会長兼社長 佐保 久理須
(コード番号:2160 東証マザーズ)
問合せ先 専務取締役 C F O 鈴木 勘一郎
(TEL. 03-3580-0751)

GNIは炎症性疾患の鍵になるシグナル伝達系の新しい制御機構を発見

2007年12月19日(東京) 先進的なバイオ創薬企業であるGNI(日本と中国に拠点を有する)は、本日「中国子会社である上海ジェノミクスの科学者が腫瘍壊死因子(TNF)のシグナル伝達系に重要な役割を果たす新規のタンパク質を発見した」と発表しました。この研究成果は有名な学術誌であるBiochemistry誌で発表される予定です。そのオンライン版はすでに

http://www.ncbi.nlm.nih.gov/sites/entrez?Db=pubmed&Cmd=ShowDetailView&TermToSearch=18067272&ordinalpos=1&itool=EntrezSystem2.PEntrez.Pubmed.Pubmed_ResultsPanel.Pubmed_RVDocSum で閲覧できます。GNIのCEOであるYing Luo博士がこの論文の共同執筆者になっています。

TNFは関節リウマチや炎症性腸疾患、喘息などの多くの炎症性疾患に関与しています。TNFは細胞表面の受容体タンパク質に結合し、NF- κ Bをはじめとする細胞内の一連のタンパク質を活性化させます。NF- κ Bの阻害剤は抗炎症剤の設計に有用であることが既に見出されています。この論文でキナーゼCK1が他のキナーゼであるRIPと結合し、NF- κ B活性化に関与しているRIP機能を制御することを発見しました。したがってCK1は新しいクラスの薬剤ターゲットの一つである可能性があります。この研究は北京にある中国医学科学院の基礎医学研究所との共同研究として進められてきました。

ジーエヌアイのCSOであるJun Wu博士はこう述べました。「GNI上海の科学者達は過去6年間TNFシグナル伝達系における薬剤ターゲットの探索を行ってきました。今回の論文はTNFシグナル伝達系に関する今年2番目の学術誌への掲載になります。このことはGNIの研究プログラムが着実に進展していることを示していると考えます。また2007年にGNIの研究者が多数の論文を発表できたことは、効果的な薬剤ターゲットの開発プラットフォームが完備されており、かつ彼らが一流の研究者であることを示しています。」一方、Ying Luo博士は以下のように付け加えています。「2007年はGNIにとって非常に実り多い年でした。われわれは主要な学術誌に4つの科学論文を発表しました。今後がんや炎症系疾患を対象にした研究プログラムを支援していくつもりです。同時に、これらの重要な研究成果を、特許によってGNIは強化に保護していきます。」

ジーエヌアイについて

2001年設立の創薬企業、活動拠点を日本と中国に有する。ジーエヌアイは、ヒト遺伝子ネットワークによる解析に成功、遺伝子ネットワーク技術を医薬品開発に応用しており、中国において臨床段階にある創薬候補物を複数パイプラインに持つ。2005年に中国上海ジェノミクスを傘下に収めたことにより、上海における研究および開発の拠点を構築した。両社の統合は、主要な世界的製薬会社との共同研究に結びついている。詳細は <http://www.gene-networks.com/>、<http://www.shanghai-genomics.com> をご覧ください。

バイオケミストリー誌について

バイオケミストリー誌は、科学者の生物学的現象の理解を深めるために、世界における最新の発見を掲載している週刊の研究誌です。分野としては、化学、生化学、分子生物学、細胞生物学などの急速に変化する領域からの最新研究成果を掲載しています。94,000の引用と3,633のインパクトファクター(重要度)があり、この分野では最も重要な研究誌の一つとして、世界の最先端分野で活躍する科学者からの研究成果を収録しているとの高い評判を得ています。詳細は <http://pubs.acs.org/journals/bichaw/about.html> をご覧ください。